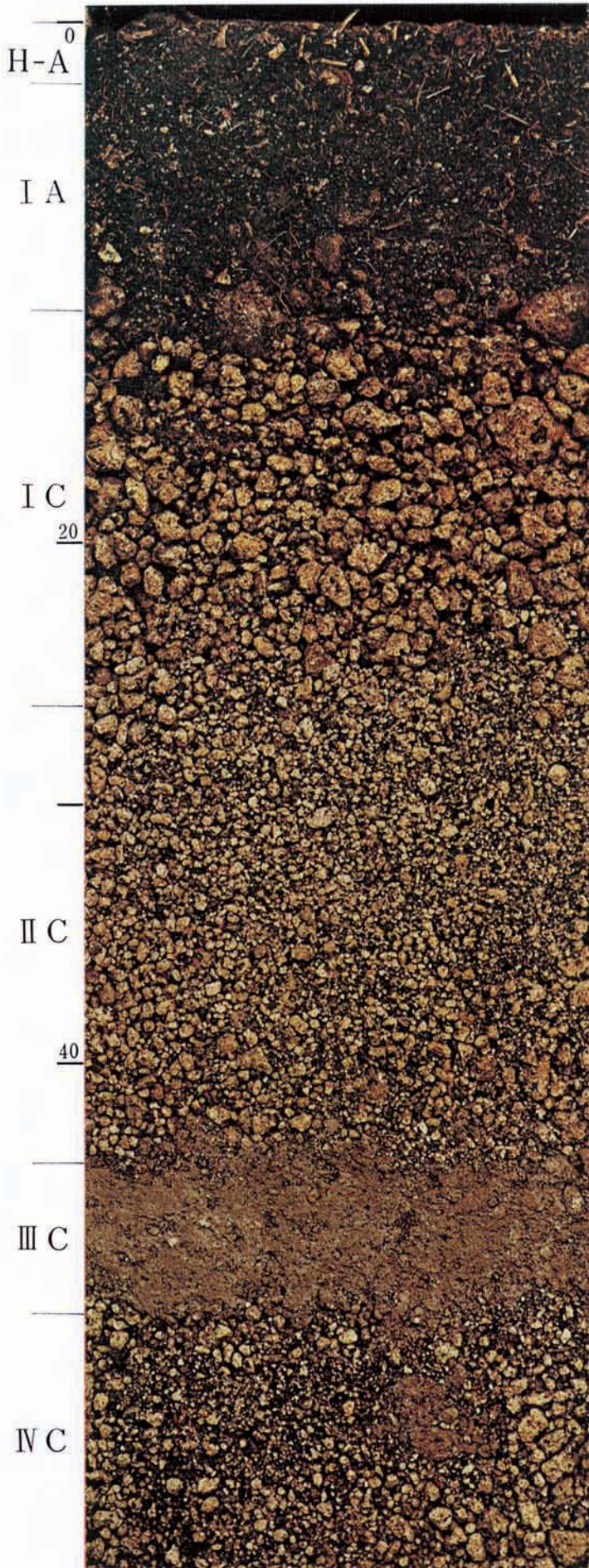


断面 30 Im-V(g)

未熟土 その1



母材料：火山軽石に火山灰混合

採取地：北海道千歳市

恵庭事業区 263 林班ろ小班

海拔高：150 m

地 形：火山山麓平坦地

方 位：——

傾 斜：——

林 相：針葉樹天然林（トドマツ・エゾマツ・オシダークキソウ）

断面記載：

L エゾマツ・トドマツの腐葉散在。

H-A 2 cm 黒色 (5 YR 1/1), 腐植にすこぶる富む, 細礫あり, 砂質壤土, 弱団粒状, しょう, 多湿, 細・中根多し, 次層との境界は明。

I A 8 cm 黒色 (5 YR 1/1), 腐植にすこぶる富む, 細・小軽石に富む, 砂土, 構造なし, 軟, 潤, 細根多し, 中根あり, 次層との境界は明。

I C 16 cm 小径軽石層, 腐植に乏し, 細根まれ, 次層との境界は明。

II C 16 cm 小径軽石層, 腐植に乏し, 細根まれ, 次層との境界は明。

III C 6 cm にぶい黄褐色 (10 YR 5/3), 腐植に乏し, 細礫を含む, 微砂質壤土, 構造なし, 堅, 潤, 次層との境界は明。

IV C 10 cm + 小径軽石に, 黒色の火山礫を含む, 腐植に乏し, 細根まれ。

採取年月日：1965年10月1日

火山の山麓や周辺の緩斜地には、未風化な火山放出物が、幾層にも堆積していることがしばしば認められる。これらは本来、土壌とはいいがたいが、表層部は往々有機物で汚染されている。

この断面は樽前火山の放出物が幾層にも堆積したものの最上部で、大部分は軽石からなるが、火山灰あるいは火山礫を含む層もあり、粒径組成、堆積状態等により層位が区分され、それぞれの堆積時期の火山活動が推察される。

最表層は有機物や土粒が、小礫の間をうずめている。III C層は微砂、粘土等が礫を包み、やや固結状の層を形成しており、不透水層になりやすく、水の移動にはかなりの影響を及ぼしているものと思われる。

このような土壌は通気、透水とも良好であるが、水もちが悪く、養分に乏しい。

林木の生育はあまり悪くはないが、有機物が、最表部の石礫の間を機械的にうずめているにすぎない。したがって、皆伐による腐植の消失が認められるので注意を要する。また、下層に不透水層があるようなところでは、カラマツは心腐れ病になりやすいので、造林にあたっては十分な注意を要する。

一般にはアカマツ、カラマツ、トウヒ、トドマツ、ヒノキ等の人工造林が可能であるが、植栽時に苗木の乾燥を防ぐ手段を講ずる必要がある。

層位	土壌中の細粒(0.2~0.1mm)の鉱物100分比							土壌中の粘土鉱物	
	軽石	火山砂	火山ガラス	石英	長石	角閃石	輝石	アロフェン	14~15Å物
H-A	56.9	10.3	5.2	5.2	3.4	1.7	17.3	+	+
I A	31.3	13.7	7.2	10.5	7.2	2.6	27.5	+	+
I C	20.0	10.8	10.7	17.7	21.5	3.1	16.2	+	
II C	14.0	12.2	16.3	7.0	20.9	1.7	27.9	+	
III C	9.9	28.1	17.4	6.6	17.4	7.4	13.2	+	×